

日本サミュエル・ベケット研究会 第44回定例研究会

2014年12月13日(土) 於 早稲田大学

発表者：戸丸優作（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

発表タイトル：マロウンは書く——サミュエル・ベケットのフランス語によるメタフィクションについて

発表要旨：

語り手兼主人公マロウンが書いていることが前景化されている『マロウンは死ぬ』のメタフィクションが後のヌーヴォーロマンの先駆的作品であるとはよく言われる。ヌーヴォーロマンの作品（ミシェル・ビュトール『時間割』）と『マロウンは死ぬ』を比較しつつ、ジッド『贖金づくり』も比較の対象としてフランス語圏文学におけるメタフィクションの展開を参照することで、ベケットのフランス語によるメタフィクション創作の特徴を考察したい。

発表者：藤原曜（関西学院大学）

発表タイトル：小説三部作における間接話法と他者の言葉——「言語学の公準」（ミル・プラトール／ドゥルーズ）を参考に

発表要旨：

「言語学の公準」において、ドゥルーズは言表行為の社会的性格を強調する（個人的な言表、言表行為の主体は存在せず、一般に個人的、心理的創造とみなされる「文体」も、言表行為の社会的性格と切り離すことはできない）。本発表では、ドゥルーズの議論の前提となる、バンヴェニスト、デュクロ（言語学）、カネッティ（社会学）の論考を確認した上で、『モロイ』における他者との対話の場面を考察し、さらに三部作における接続詞の使用に注目することで他者の言葉の問題について考えたい。